

瀬戸地区・郷

郷はもともとは「本郷」と呼ばれており、瀬戸村では最初に集落が作られた場所です。南側の祖母懷には加藤四郎左衛門景正（通称：藤四郎）が瀬戸で良土を見つけたという伝説があります。



開館時間：10：00～17：00

休館日：火曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始

駐車場：有

入館料：無料

瀬戸染付工芸館(古窯(市指定文化財/建造物))

平成12年(2000)4月開館。「本館」「交流館」のほか、「古窯(こがま)」と呼ばれる染付磁器を焼いていた登窯(市指定文化財/建造物)があります。また、瀬戸染付の技術伝承のため研修生を受け入れており、工房(交流館)では研修生たちの作陶風景を間近に見ることができます。「本館」2階には瀬戸染付の歴史的名品、「交流館」2階には研修生と研修修生の作品が展示されています。建物は第8回愛知まちなみ建築賞を受賞しており、平成19年(2007)には経済産業省により古窯が近代化産業遺産に登録されています。



陶器



磁器



創造



街



交流



自然

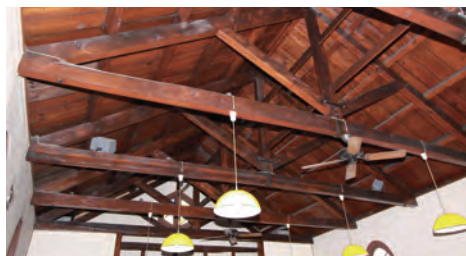


祭り



一里塚本業窯（市指定文化財 / 建造物）

「本業窯」は連房式登窯の一種で、江戸時代以降専ら本業（陶器）製品を焼成する窯として使用され、磁器製品を焼成した「丸窯」とともに瀬戸を代表する窯です。本窯は昭和 25 年（1950）に東洞町にあった 13 連房の奥洞窯（東洞 A 窯跡）の窯材を使用して再築したもので、胴木間・捨間から四の間までの焼成室、煙道など以前の構造をよく残しています。昭和 49 年（1974）に市の文化財指定（建造物）を受けるまで、火鉢・水甕・播鉢などを年 3 回ほど焼成しており、播鉢だけなら 1 回で約 1 万個を焼成することができたといわれます。付属するツク・タナ板などの窯道具類も指定に含まれています。



瀬戸永泉教会礼拝堂（国登録文化財 / 建造物）

明治 12 年（1879）の中水野村東光寺から始まった瀬戸でのキリスト教伝道は、瀬戸町に移って瀬戸永泉教会となりました。プロテスタント長老派の同教会では、明治 33 年（1900）建造の礼拝堂が、今日まで教会の中心的な建造物として大切に使われています。国登録文化財（建造物）である瀬戸永泉教会礼拝堂は、木造平屋建てで、奥行き（桁行）6 間・幅（梁間）4 間の小規模な瓦葺建物です。屋内の天井部分には、洋風建築にみられる三角形のトラス構造と、和小屋である土蔵等にみられる貫の構造が組み合った、和洋折衷の特徴がみられます。



招き猫ミュージアム



開館時間：10:00～17:00（入館は 16:30 まで）

休館日：火曜日（祝日の場合は開館）、年末年始

駐車場：有（有料）

入館料：大人 300 円、高・大学生 200 円、中学生以下無料（20 名以上は団体割引あり）

招き猫ミュージアムは、「日本招猫倶楽部」の世話役を務める板東寛司・荒川千尋夫妻の個人コレクション数千点を展示する、日本最大の招き猫専門博物館です。前身の「日本招猫倶楽部 招き猫ミュージアム」は、群馬県吾妻郡嬬恋村にあり、平成 8 年（1996）から「来る福招き猫まつり in 瀬戸」の開催に取り組んできた瀬戸市に移転する運びとなりました。建物は、大正時代の瀬戸の洋館建築を彷彿させます。印象的な外観で中心市街地の新たなランドマークにもなっています。



陶祖春慶翁宅趾碑



六角陶碑には、加藤四郎左衛門景正（通称：藤四郎 / 号：春慶）の居宅が「中島」の大きな杉が生えていた場所にあったと記されています。この碑は、その伝承に基づいて、かつて大杉があったとされる場所に昭和 24 年（1949）に建てられました。

瀬戸地区・郷地図



- ①瀬戸染付工芸館（古窯）（P21）
- ②一里塚本業窯（P22）
- ③瀬戸永泉教会礼拝堂（P23）
- ④招き猫ミュージアム（P24）
- ⑤陶祖春慶翁宅趾碑（P24）